

被爆75年 核兵器禁止条約の発効に向けて 長崎の聲を聴く

講師：鈴木 千鶴子 さん

長崎純心大学客員教授、（一社）大学女性協会国際担当理事
1996年～2009年長崎市平和宣言文起草委員



開催概要

日時：2020年10月1日

場所：婦選会館2階会議室

参加人数：34人

担当：平和委員会

世界で唯一の戦争被爆国日本の二つの被爆地について、一般に「怒りのヒロシマ、祈りのナガサキ」と言われる。そのゆえんは、広島は爆心地が市街地であるのに対して、長崎は長崎市の中心部から離れた浦上というつましい信仰の地が爆心地であったことに始まる。

また、広島、長崎には被爆をテーマにした代表的な歌がある。広島には「原爆許すまじ」、長崎には「長崎の鐘」。「長崎の鐘」は、長崎医科大学出身の放射線科の医師であり、敬虔なカトリック信者であった永井隆が被爆体験をつづった著書『長崎の鐘』がモチーフとなっている。永井は、被爆の悲しみを分かち合いながらも、内省的であり、病床から数々の著作を通して、責めることより寛容の精神を人々に伝えた。彼の「祈り」は、平和を築くナガサキの営みに繋がっていく。

今まで長崎では、被爆者団体、核廃絶地球市民集会、長崎・セントポール姉妹都市委員会、平和推進協会などが平和を目指して様々な市民活動をしてきた。中でも若者の行動が注目を集めている。高校生平和大使派遣委員会（長崎の市民団体）によって毎年全国から「高校生平和大使」20名前後を選び、国連本部やICANなどの平和団体へ派遣している。また、高校生平和大使の応募を機に集まった高校生たちが核兵器廃絶を目指し「高校生一万人署名活動」を行っている。これらの活動は2018年、2019年、2020年、ノーベル平和賞候補に推薦された。こうした活動には「大人の献身的指導と支援」「市民団体組織の形成」が不可欠である。大学生の活動には「ナガサキ・ユース代表団」や、長崎純心大学の平和学習団体「Green Pieces」などによるものがある。

教育研究活動として核兵器廃絶に特化した研究機関に長崎大学核兵器廃絶センター（RECNA：Research Center for Nuclear Weapons Abolition）がある。講師は「“核抑止力”に異を唱えることは、平和を希求するすべての人にとって喫緊の課題である」「処分が困難な核が世界中に大量に存在する現在だからこそ、その脅威を削減する国家間の関係構築と相互理解が必要である」と結んだ。